

シンポジウム「アジアをめぐる人材戦略」

(趣旨)

近年、新興国が経済的にも政治的にも台頭するなか、世界情勢は大きく揺れ動いている。アジアでも、安全保障をめぐる緊張が高まっている。欧米経済が停滞から脱しないなかで、アジアが世界経済を牽引する役割は一層重要になっているが、安全保障の問題が、域内の相互理解や協力を暗い影を落としている。

こうしたなかで、2015年に予定されるASEAN経済共同体の発足、現在進行中のTPP(環太平洋経済連携協定)やRCEP(包括的経済連携協定)又は日中韓FTA(自由貿易協定)をめぐる交渉は、政治摩擦を乗り越えて、経済発展を持続する重要な契機となるであろう。

しかし、アジア域内では人口動態や経済発展の格差が大きく、高度人材から低技能労働者まで広範囲の分野で、労働需給にミスマッチが発生している。また、留学による欧米への移動が過去最高水準となる一方、欧米からアジアに帰還する人材も増加傾向にある。さらに、アジアは難民の主要発生地域であるが、難民受入れの過半数は欧州に依存しており、アジア各国の人身取引対策も、今世紀になって本格化したにすぎない。

そこで、経済統合への動きに加え、広くアジア域内の人材移動を円滑化して、欧米など域外からの人材還流の方策を進め、域内諸国の協力と相互理解と和解を進め、狭いナショナリズムを克服する途を展望したい。

本シンポジウムでは、多様な報告者の協力を得て、アジアをめぐる人材戦略に関し報告及び討議を行い、国際的な人の移動及びこれに対する政策に関する研究並びに日本の外国人政策の議論に寄与することを目指したい。